

事業名 琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センター

本実験センターは、水路や池、水辺、琵琶湖・淀川のモデルを人工的に作り、様々な水質浄化実験や浄化技術の研究を進めるための事業

受賞機関 建設省近畿地方建設局
滋賀県
水資源開発公団関西支社
財琵琶湖・淀川水質保全機構

事業実施期間 平成6年4月1日～平成9年6月30日

事業費 600百万円

技術等の特徴と評価

水路、池や水辺、琵琶湖・淀川のモデルを人工的に作り、水質浄化の実験や浄化技術の研究・開発することによって、琵琶湖・淀川の新しい水環境の創造を目指すもので、今後の公共用水域の水質浄化事業の推進に貢献できる。

事業の概要と効果

当実験センターは、河川や琵琶湖の直接浄化施設を想定し、実施に近い規模をもたせた施設を用いて、汚濁物質や汚濁濃度に応じた新しい水質浄化手法の開発や浄化施設の維持管理手法を検討するための実験等を行う目的で建設した。

本実験センターは、琵琶湖南湖に流入する代表的な河

川である葉山川や河口部右岸に造成されたもので前浜約50,000m²の敷地を有し、このうち外周道路に囲まれた25,000m²と琵琶湖に面した湖岸約200mが実験フィールドとして整備したもので、湖岸前浜には300分の1のミニチュア琵琶湖や淀川の地形と流水を再現し、多種多様な生物相の違いや浄化機能の検証を行うと同時に親水施設としての役割も担うことを重視した。

また、ヨシやクレソン、ホテイアオイなどの植物を使い、湖沼の汚れの原因となる窒素、リンなどの有機物を吸収させる実験や、土壌などのろ材による浄化性能の検証、さらに湖岸沿岸には、閉鎖水域をつくり、水ヨシ植栽および生育実験、わんどの消波効果を検証するなどの施設を設置した。また、実験原水の確保や各種形態の実験スペースの整備にとって最適な立地条件を備えている。

さらに、都市公園（湖岸緑地）としての指定を受けていることや近接する烏丸半島にはUNEP国際環境技術センターや琵琶湖博物館が開設されていることなどから、本実験センターについても実験・研究関係者のみならず、広く国内外からの来場者が見込まれる。

効果として、本実験センターは、多種多様な浄化手法による実験施設を設置することにより、複数の施設を組み合わせた浄化実験が可能であること、実施に近い施設規模を有することにより、水質浄化特性の把握、浄化施設の維持管理手法、浄化副産物処理の手法等について実用的な知見が得られること等から、今後の公共用水域における水質浄化事業の推進に大きく貢献できるものと考えられる。また、琵琶湖国定公園内であり、日本の都市公園100選にも選定されている湖岸緑地となっていることから、周辺部は公園整備がなされ、一般市民や小中学生、さらには流域府県からの見学者が立ち寄る場所となる。そこで、水環境の保全や水源である琵琶湖の重要性を深く理解してもらうためのテーマパーク的な実験センターをも目指している。



△ 多自然型水路



ソフトエネルギー浄化▷



深池型植生浄化